

# 「水防災意識社会」の再構築へ 天竜川上流河川事務所の取り組み状況

## 天竜川上流部の水害の特徴

- 中央アルプスと南アルプスに囲まれた地形により、支川上流で降った雨が短時間で天竜川本川に流入する
- 近年（昭和36年、昭和57年、昭和58年）以降、大規模な浸水被害を伴う水害が発生していない
- 霞堤などの伝統的な治水施設が多く存在する
- 河川法制定前に設置された橋梁がある
- 急流河川であり、水衝洗堀による被害の恐れがある

## 減災のための主な課題

- 避難勧告・指示を発令するタイミング
- 避難勧告・指示を発令する地区の順序（一括発令か段階発令か）
- 防災情報の伝達手段（学校、観光客等地域外の方、一般企業者にも情報を）
- 地域住民及び教育関係者の防災意識の向上（水害に対する危険度の認識）
- 自治体職員を対象とした防災教育の実施（年1回、職員の8割を目標とする）
- 実用性のある水防マニュアルの作成
- 水害に対する訓練（避難訓練、水防訓練、情報伝達訓練、復旧方法、排水訓練 等）
- 道路管理者等との連携

## 5年間で達成すべき目標

天竜川上流の大規模な水害に対し、流域自治体一体となって、「**水防関係機関、住民、学校関係者の防災意識向上**」、「**安全への思い込み払拭**」、「**行政機関等の連携強化**」を目指す

## 目標達成に向けた3本柱の取り組み

- 水防関係機関、住民、学校関係者を対象とした防災教育を実施、地域の防災意識向上に向けた実践的な取り組みを実施
- 安全への思い込み払拭、迅速かつ的確な避難行動のための取り組みを実施
- 伊那谷特有の地理的条件（盆地、急流河川）を考慮した洪水氾濫被害軽減のために、行政機関等が連携した取り組みを実施

